

次の男女のコミュニケーションの方法の違いに関する英文を読んであとの問いに答えよ。

¶ 1

*Assertiveness may be important for men when they speak, but women who want to make themselves (1) need to be warm, gentle and even a bit hesitant, a Massachusetts researcher said.

¶ 2

(A)Psychologist Linda Carli of Wellesley College said her studies about differences in communication styles between men and women showed a wide *gender gap in the way men and women judged each other.

¶ 3

Men, who think *assertiveness means ability in men's speech, don't (2)judge women's speech the same way. They listen more to women who speak softly.

¶ 4

In one study, Carli asked male and female actors to record messages using both assertive and hesitant styles of speaking. (B)Then she had 60 men and an equal number of women listen to the tapes to judge the speaker's ability.

¶ 5

She found that although the men were impressed with other men who seemed confident and able, (3)that was not the way they judged the female speakers.

¶ 6

(C)The women who seemed most impressive to the men in the study were those who spoke with a soft voice, warmth and friendliness.

¶ 7

(D)Women, on the other hand, preferred other women who seemed sure and confident even when they were not very warm, she reported.

¶ 8

In a second study, Carli asked men and women to talk *in either mixed or same-sex pairs about topics on which they disagreed. She found that when women talked to other women, they didn't change their communication style.

¶ 9

But when women talked to men, they tended to use (4) hesitant language such as "It's sort of true," or "I may be wrong, but," or "I'm right, aren't I?" (E)The results suggest that in mixed-sex conversations, women can be persuasive or assertive, but not both at the same time, Carli said.

¶ 10

(F)"When it comes to influencing a man, it seems that women must be more than merely able," Carli said. "They must make themselves (1) with warmth. To paraphrase an old song, "nice and able does it."

注)

assertiveness = 断定的であること, 断定的に話すこと

gender gap = 性差, 男女の違い

in either mixed or same-sex pairs = 男女混合あるいは同性のペアで

質問・難しかった問題

全訳する子の為の【重要語句・重要表現】

¶ 1

- ・ make oneself understood Aで「Aを理解してもらう」。
- ・ gentle は「優しい」。
- ・ a bit Aで「ちょっとA」
- ・ hesitant で「ためらいがちの」。
- ・ warm, gentle, and even a bit hesitant は、A, B, and C。
- ・ Massachusetts は「マサチューセッツ州」。MITI (マサチューセッツ工科大) のある州。

¶ 2

- ・ psychologist は「心理学者」。
- ・ Linda Carli of Wellesley College の of は「所有・所属の of」だから「ウェルズリー大のリンダ・カーリ」。あ、数下リンダとは何の関係もない。
- ・ about differences の about は「関連の about」だから「違いに関する研究」。
- ・ in communication styles の in は「視点・観点の in」で「コミュニケーションの方法の点での」。
- ・ in the way の in も「視点・観点」だと考えて「やり方の点における隔たり・違い」。

¶ 3

- ・ the same way で「同様に」。
- ・ softly は「柔らかに」。
- ・ in men's speech で「男性の離す能力という点での」。speech には「①話、演説、スピーチ」、「②発話、発語、話すこと」、「③話す能力」の3つの意味がある。ここでは③。in は「視点・観点」であることに注意。
- ・ 下線部(2)の the same way には in が省略されていて、in the same way となっているのが省略なしの形。この in は「やり方・方法の in」。in this way、in this manner、in this fashion は全部「この様なやり方で」の意味。

¶ 4

- ・ ask 人 to ~ で「人に~するように頼む」。
- ・ using both ~ の直前にコンマ(,)が省略されているのに気づいたか？これは「-ing」の付帯状況分詞構文。「①~しながら」、「②~してそして・・・」のどちらかを当てはめてみる。すると「①~しながら」だと分かるのだが、「~の話し方の両方を使いながら」ではおかしい。そこで、付帯状況分詞構文の「て」を思い出す。「~の話し方の両方を使
- ・ style of speaking で「話し方」。「話の持つスタイル」が原義で所有格の of だけど「話し方」が良い。assertive style of speaking で「断定的な話し方」、hesitant style of speaking で「ためらいがちな話し方」。
- ・ 「have + 人 + 原形不定詞」は使役。had 60 men listen to the tapes で「60人の男性にテープを聞かせる」。
- ・ to judge ~ の to は「何するために」の副詞用法の to 不定詞。

¶ 5

- ・ She found that ~ の that は「ことシリーズ」。直後には文が来る。
- ・ that though ~ で読めなくなった子は経験不足。that の直後には文が来るのだから、接続詞 though から始まる文が来ても別におかしくない。though A, B で「Aなのだが、しかしB」。
- ・ 人 is impressed with A で「Aに感動する」。impress は「させる系」で「感動させる」。「人 is -ed」「モノ is -ing」の型にはまっている。
- ・ confident で「自信のある」
- ・ able は「有能な」の形容詞。confident and able が A and B であることに気がつけば、AもBもほぼ同じ意味で同じ機能の語だと想像がつく。そこから「自信があって、そして有能な」の訳が思い浮かべば good。
- ・ that was not the way ~ の that は主語に成っているので「代名詞の that」で「それ」。これは承前語句だから問題化されているね。
- ・ 先行詞 the way を飾る関係副詞 how は省略しなくてははいけない。the way と how とは同居しない、だったね。

¶ 6

- ・ impressive で「印象的な」。
- ・ A is most impressive to B で「AはBにとって一番印象的である」の意味。to は前置詞で「指さす to」
- ・ those [people] で「そういう人々」。それが先行詞となって who 以下がその飾り。
- ・ with a soft voice の with は「手段・方法の with」。「やさしい声で」くらいの意味。
- ・ friendliness は「親しみ」。
- ・ a soft voice, warmth and friendliness で A, B(,) and C。

¶ 7

- ・ on the other hand で「一方」。
- ・ prefer A で「どちらかと言えばAを好む」の意味。普通は prefer A to B の形で「BよりもむしろAを好む」出使う。
- ・ 人 is sure で「人はしっかりしている」と訳出すると良い。A is B が「AはBだ」と断定的なら、A seem B は「AはBのようだ」と自信のない表現。

¶ 8

- ・ in either mixed or same-sex pairs には注がついているが、either A or B で「AかBかどちらか」、in は「形状の in」で「~の形で」が原義。
- ・ about topic で「話題について」。何の話題かを on which が飾っている。on は「事柄・関連の on」で about と同じだと気づけば、which はモノだから「それ」と訳詞で、on which だけで「それについて」だと分かる。about topic on which ~ で「それに関する話題につて」で、「それ」が which 以下。前置詞+関係代名詞はそれだけで訳せることを覚えておくこと。例を挙げておく。
 - ◎ in which = その中で
 - ◎ with whom = その人と一緒に
 - ◎ to whom = その人に対して
- ・ talk to 人で「人に話しかける」。
- ・ disagree で「意見が一致しない」。

¶ 9

- ・ A such as B で「BのようなA」。時には such A as B にもなる。AとBとは同格関係にあることに注意。
- ・ sort of A で「いくぶんA」「多少A」「ある程度A」「すこしA」の意味。
- ・ The results suggest that 文はモノ主語。「その結果は~ということを示唆している」よりも「人はその結果から~ということが分かる」と訳すと日本語的。
- ・ persuasive 「口の上手い」は persuade 「説得する」の派生語。

¶ 10

- ・ when it comes to ~ で「~ということになると」。
- ・ merely A で「単にA」。

(B)

Then

| | | | | |
|-----|-----|---|---------------------|--------------------------------|
| she | had | 60 men and an equal number of women | listen to the tapes | to judge the speaker's ability |
| 主 | させた | 何に | どのようなことを | |

- * 使役動詞 have は「させる+何に+どのようなことを」の第5文型を取る。「どのようなことを」は原型不定詞。
- * listen to A の to は前置詞の to で「指さす to」。どちらの方向に耳を傾けるのかを指さしている。
- * to judge ~ の to は不定詞の副詞用法で「何するために」。

(C)

| | | |
|-----------|------|----------------|
| The women | were | those [people] |
| A | = | B |

who speak with { a soft voice
warmth
and
friendliness }

who seemed most impressive to the men
in the study

- * seemed は be 動詞に置き換えて考える。つまり who were most impressive ~ の自信のない表現。
- * to the man の to は「指さす to」だから「男性に対して一番印象的だった女性」。
- * in the study の in は場所の in で「目に見えない抽象的状況の中」。単に「その研究の中で」が良い。
- * those who ~ は people を補って考える。
- * with a soft voice の with は「手段・方法の with」。声色を目に見える道具と考えているのが面白い。

(D)

| | | |
|-------|-----------|-------------|
| Women | preferred | other women |
| 主 | 好む | 何を |

who seemed { sure
and
confident }

| | | | |
|-----------|------|----------|-----------|
| even when | they | were not | very warm |
| | A | = | B |

- * prefer A to B で「BよりもAを好む」。省略されてる「to B」は「柔らかな話し方の女性より」。
- * 「人 is sure of oneself.」で「人は自分に自信がある」の意味。of 以下の書略。
- * 「人 is confident of one's ability.」で「人は自分の能力に自信がある」の意味で、やっぱり of 以下省略。

(E)

| | | |
|-------------|---------|--------|
| The results | suggest | that+文 |
| 主 | 示す | 何を |

<文>

in mixed-sex conversations

| | | |
|-------|----------|-----------------------------------|
| women | (can) be | { persuasive or assertive } |
| A | = | B |

but

| | | | |
|-------|------------|---|------------------|
| women | can not be | both { persuasive and assertive } | at the same time |
| A | = | B | |

- * モノ主語なので「研究の結果から次のことが分かった・示された」だが、「研究結果が示唆するのは~」でも悪くない。
- * in mixed-sex ~ の in は「目に見えない抽象的状況の中の in」。単に「~の会話の中で」が良い。
- * but not both の省略に注意すること。同形反復の省略を見取り図で確認のこと。
- * at the same time の at は「時間の一点の at」。

(F)

| | | | |
|------|----|-------|----------------------|
| When | it | comes | to influencing a man |
| | 主 | 来る | |

| | |
|----|-------|
| it | seems |
| 主 | らしい |

that+文

| | | |
|-------|-----------|-----------------------|
| women | (must) be | more than merely able |
| A | = | B |

- * it comes の it は「話題の it」。「話が~のことになると」が原義。「話が男に影響を与えることとなると」→「男に影響を与えることにかけては」と意味が広がる。頻出構文の一つだ。to は当然「指さす to」。When it comes to A で「話がAのことになると」と覚えておいて良い。
- * it seems that ~ の it は形式主語で that 以下が真主語。it seems で「そのことはそうであるらしい」くらいの意味。
- * able は形容詞で「有能な・優れた」の意味。

「復活！アブラゼミ・第5回」解答・解説

- 設問1 ウ
設問2 男性同様に（断定的であることが有能さを意味すると考える）こと。
設問3 男性が、自信があつて有能に聞こえる他の男性によい印象を持ったこと。（33字）
設問4 ・「それは、まあ、本当かもしれない」
・「私が間違っているかもしれない、しかし～」
・「私が正しいですよ？」
設問5 ア、ウ（順不同）
設問6 全訳例参照

【設問解説】

設問1
空所補充問題は「①文法・品詞」で決まるモノ、「②文脈」で決まるモノ、①②の混合タイプの3つがある。どうやって判断するのかと言うと選択肢を見れば分かる。ア～エを見ると understand の活用形で原形、現在分詞、過去分詞、そして未来形の4つ。品詞や時制が違うので「①文法・品詞」タイプだと判断できる。make は使役動詞で後ろに「人」が来ると原形不定詞だが、myself は「私が言いたいこと」の意味の「モノ」だから、「モノは人によってされる」の過去分詞が来る。だからウが正解だと分かる。

設問2
下線部(2)は具体的に何かを聞いている内容説明問題。それが空所補充になっているので、幼稚園の入園試験レベル。「何か説明せよ」の内容説明問題は「承前語句」か「同格関係」を使って解く。下線部に承前語句があれば前を訳し、同格関係なら後ろを訳す。下線部を見ると the same way という承前語句があるので、その直前を和訳すればよいことに気がつく。与えられた日本語を見て直前文の和訳が付いている。やっぱり幼稚園レベルだとわかる。和訳が抜け落ちていた部分を補えば良いのだから「男性は、断定的であることが男性の話における有能さを意味すると考えるが、女性の話と同様には判断しない」の下線部を訳出してやれば正解。

設問3
これも下線部(3)が具体的に何かを聞いている内容説明問題。今度は字数制限付きなので、やっと高校レベルになった。下線部(3)that は、これも承前語句だから直線を和訳すれば良いと分かる。the men were impressed with other men who seemed confident and able, を和訳する時、A is impressed with B が分からなければアウト。able の訳出も難しいように思えるが、A and B は順接なのだから、A と B は両方とも同じプラスイメージの形容詞じゃないといけない。「自信があつて able みないな」から「有能な」が出てこなくても「自信があつて仕事ができる」などと誤魔化せると good !

設問4
下線部(4)の直後の A such as B に着目する。A such as B は「B のような A」の意で A と B とは同格関係にある。だから、その後に述べられている3つの例のうちからどれか一つを選んで訳出すればよいことが分かる。「It's sort of true,」は「それは、まあ、本当かもしれない」、*"I may be wrong, but, "* は「私が間違っているかもしれない、しかし」、I'm right, aren't I? であれば「私が正しいですよ？」のように訳出するとよい。

設問5
選択肢が英語で書かれている場合は、マーカを英語で拾って本文中にそれと同じ英語を探せば良いので比較的簡単だが、日本語で書かれている場合には、それに該当する英語を探すことになり、語彙力がないと逆に難しくなる。模試では、設問の順番と物語の展開とが同じだということを忘れずに、マーカを頼りにして、どの段落のどの文を読めば設問に答えられるかを探ること。

ア **断定的に話すこと** は男性にとっては重要であるかもしれないが、女性にとっては必ずしもそうではない。これは注に「assertiveness = 断定的であること、断定的に話すこと」とあるので簡単。第1段落の最初の文で、「話すときに断定的であることは、男性にとって重要であるが、自分を理解してほしい女性は、温かみをもって優しく、そして少しためらいがちにさえなる必要がある」とあるので、アは正解。

イ 心理学者のカーリは、ある実験で **60人の男女** にテープを聞かせて、話し手の能力を判断させた。数詞（数字）はとても信頼できるマーカになる。60人を探すと、第4段落の第2文で「それから、彼女（＝カーリ）は60人の男性と、同じ人数の女性にテープを聞かせて、話し手の能力を判断させた」とある。だから、テープを聞いたのは男性60人と女性60人の計120人なのだから、イはダメ。結局この問題は equal number of women が訳せるかどうかの語彙問題。

ウ ある調査では、男性にとって **印象的な女性** は柔らかな調子で温かみや親しみを感じる話し方をする名詞がマーカになるのだが、それに形容詞が付いていてもかまわない。ここでは「印象的な女性」をマーカにした。不安なら「柔らかな調子で暖かみや親しみのある話し方」をマーカに加えても良い。すると、第6段落に The women who seemed most impressive とあり、「その研究で、男性にとって最も印象的に聞こえた女性は、柔らかな声で、温かみや親しみのある話し方をした女性であった」とあるので、ウは正解。

- エ ある調査では、**女性は他の女性に話すとき**自分の話し方を変えた。何度も書くが、時や場所の副詞も、とても信頼できるマーカになる。副詞ではウソを吐きにくい。ここでも「女性は他の女性と話すとき」は正しく、話し方を変えるのか変えないのかが正誤の判断にゆだねられる。第8段落の2つ目の文に when women talked to other women とあり、「女性が他の女性と話をするとき、自分の話し方を変えなかった」と書いてあるのでエはダメ。
- オ ある調査で、**男女が混じった会話**の場では、女性は断定的かつ説得力のある話し方が同時にできることが示された。ここでは場所の副詞「男女が交じった会話の場」をマーカにするのがよい。保険をかけたければ「断定的で説得力のある話」をマーカに加えて良い。すると、第9段落の第2文で「結果が示唆しているのは、男女が混じった場での会話では女性は説得力のある口調も、あるいは断定的な口調のどちらもできるが、同時に両方を満たすことにはなりえない」とあるので、オはダメ。

設問6 全訳例参照

「復活！アブラゼミ・第5回」全訳例

- ¶ 1 話すときに断定的であることは男性にとって重要であるが、自分を理解してほしい女性は、温かみをもって優しく、そして少しためらいがちになる必要さえある、とマサチューセッツ州の研究者が述べた。
- ¶ 2 (A)ウェルズリー大学の心理学者リンダ・カーリによると、男女間のコミュニケーションの方法の違いに関する彼女の研究の結果、彼らが互いを判断する方法に男女間の大きな違いがあったという。
- ¶ 3 男性は、断定的であることが男性の話における有能さを意味すると考えるが、女性の話と同様には判断しない。彼らは柔らかく話す女性により耳を傾けるのである。
- ¶ 4 ある研究の中で、カーリは男女それぞれの俳優に断定的な話し方とためらいがちな話し方の両方でメッセージを録音するように頼んだ。(B)そして60人の男性と同じ人数の女性にテープを聞かせて、話し手の能力を判断させた。
- ¶ 5 男性は自信があって有能に聞こえる他の男性により印象を持ったけれども、そのことが彼らが女性の話し手を判断する方法ではないことに、リンダは気がついた。
- ¶ 6 (C)その研究で男性に最も印象的に聞こえた女性は、柔らかな声で温かみや親しみを持って話した女性であった。
- ¶ 7 (D)一方、女性は確信的で自信があるように聞こえる他の女性をあまり温かく（は聞こえ）ないときでさえも好んだ、とリンダは報告した。
- ¶ 8 2番めの研究では、カーリは男女いっしょに、あるいは男性〔女性〕同士で彼らの意見が違う話題について話してもらった。リンダは、女性が他の女性と話すときは自分の話し方を変えないことに気づいた。
- ¶ 9 しかし、女性が男性と話すときには「それはまあ、本当かもしれない」「私が間違っているかもしれない、でも」「私が正しいですね？」のようなためらいがちな言葉を用いる傾向があった。(E)結果が示唆しているのは、男女が混じった場での会話では、女性は説得力のある口調も、あるいは断定的な口調のどちらもできるが、同時に両方を満たすことにはなりえないということである、とリンダ・カーリは言った。
- ¶ 10 (F)「男性に影響を与えるということにかけては、女性は単に有能である以上でなければならないようである」とカーリは言った。「女性は、温かみで自分を理解してもらわなければならない。古い歌を言いかえるなら、『うまく、有能にやるのがよい』」

【ロジック】

1つの段落に1つの文章しかない悪文。普通は1つの段落に1つのテーマとそれに付いての著者の意見が述べられているのだが、この英文はそうになっていない。だから、自分で適当に段落を区切り直して読むしかない。

英文の内容は、「調査・研究文」だから、次のことに気をつけて読む。

1. 調査・研究の**対象** (何を調査・研究したのか?)
2. 調査・研究の**方法** (どんなやり方で調査したのか?)
3. 調査・研究の**結論** (その調査・研究から何が分かったのか?)

普通のロジックは「テーマ」、「それに対する著者の意見」、「それを裏付ける具体例」の3部構造なのだが、「調査・研究文」ではそれぞれ次のモノに該当する。

1. テーマ＝調査・研究の対象
2. 具体例＝調査・研究の方法
3. 意見、主張＝調査・研究の結論

そこから、「テーマ」は全体の概論である第1～3段落に書かれている「男女間のコミュニケーションの方法の違い」。何度も繰り返し出てくるのが assertiveness (断定的話し方) と warmth (心安らぐ話し方)。assertiveness の類語として assertive が、warmth の類語として gentle や hesitant が使われている。

具体的な研究方法は先ず1つ目が第4段落にあり、その結果が第5～7段落で述べられている。次に、2つ目の研究方法が第8段落にあり、その結果が同じ8段落途中から最後の第10段落にかけて述べられている。